

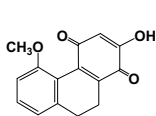
29P-am143

シンビジウム グレートフラワー・マリーローランサン(*Cymbidium marylaurencin*)の根の化学成分とそれらの生理活性について

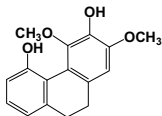
○吉川 和子¹, 馬場 千裕¹, 谷 沙希子¹, 河野 幸子², 今川 洋¹, 西沢 麦夫¹, 森田 博史³, 橋本 敏弘¹(¹徳島文理大薬,²河野メリクロン,³星薬大)

【目的】 当研究室では高等植物からの新規生理活性物質の探索を目的として、近年開発された園芸品種シンビジウムのマリーローランサン(*Cymbidium marylaurencin*)の茎の成分の検索を行い、10種の芳香族化合物を単離、それらの化学構造と抗酸化活性を前回の薬学会で報告した。今回は新鮮根の活性成分の検索を行った。

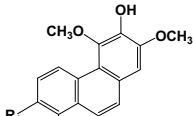
【実験・結果】 マリーローランサン(8.0 Kg)をメタノールで抽出、酢酸エチル可溶画分(42 g)を得た。これをシリカゲルカラムにより粗分け後、各フラクションをさらに順相、逆相カラムで分離精製を繰り返し行い、2種の新規化合物(1, 2)並びに3種の既知化合物(3 - 5)の合計5種のフェナントレン化合物を得た。これら化合物の構造は2D NMR(COSY, DEPT, HMQC, HMBC, ROESY)を主とする各種スペクトルデータの解析により決定した。さらに、化合物1は良好な結晶が得られたのでX線構造解析を行った。化合物1は各種がん細胞株に対する細胞増殖抑制並びにiNOS阻害活性を検討した。



1



2



3: R₁=OCH₃, R₂=H
4: R₁=OH, R₂=H
5: R₁=OH, R₂=OCH₃